

## 不稔発生時における刈取適期の目安

冷害年において水稻の障害型冷害が多発した場合、品質を確保するための刈取適期の判定が困難である。不稔歩合が高いほど籾の黄化速度が速く、青未熟粒が早く減少する。また、早期からの割れ籾の発生や被害粒・着色粒の増加によって品質が低下することから、不稔歩合が高いほど刈取適期は早まる。

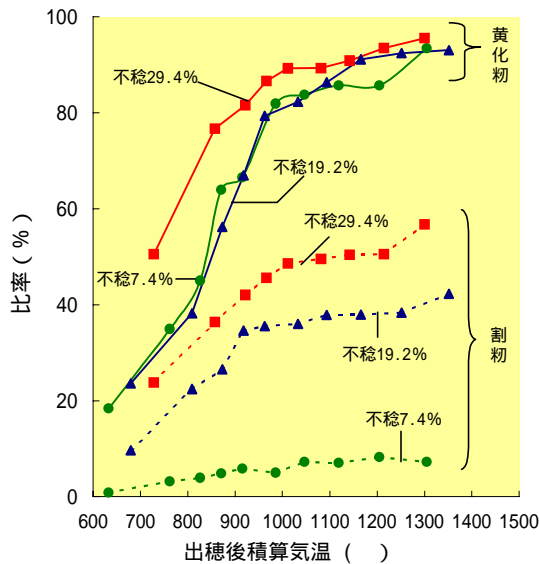


図1 不稔歩合別黄化籾割合の推移 (あきたこまち)  
注1) 黄化籾割合: 不稔を除いた割合  
注2) 割れ籾は玄米が露出したもの

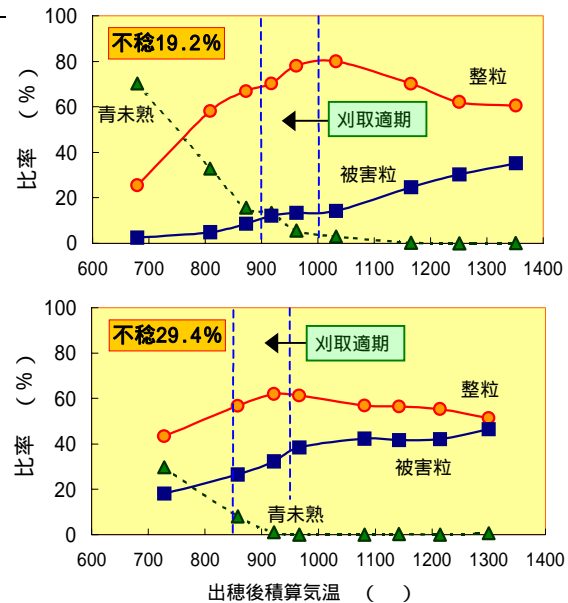


図2 刈取時期別玄米品質の推移 (あきたこまち)

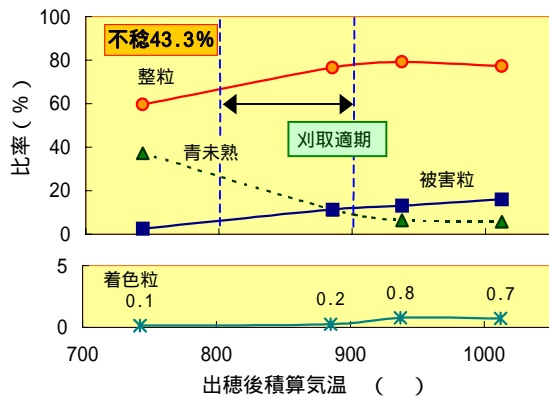


図3 刈取時期別玄米品質の推移 (いわてっこ)  
出穂後積算気温 900 以上では着色粒によって品質が低下する。

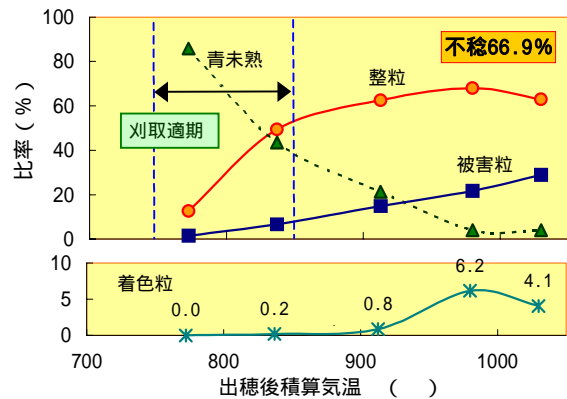


図4 刈取時期別玄米品質の推移 (かけはし)  
出穂後積算気温 850 以上では着色粒によって落等する危険性がある。

注) 図2,3,4の被害粒は奇形・背黒・茶米を含む。玄米品質は1.7mmの篩目を使用。

### 不稔発生時の刈取適期の目安

不稔歩合	刈取適期の出穂後積算気温の目安
10%以下	通常の品種別刈取適期の目安どおり
10～20%	900～1000
20～40%	850～950
40～60%	800～900
60%以上	750～850